

「市原市子ども読書活動推進フォーラム2019 未来を拓け！読書でつながる いちはらっ子」事業報告

2007年から始まった「市原市子ども読書活動推進フォーラム」も今年で13回目となりました。今年は予定していた会場が、台風15号の被害で使用できなくなるというアクシデントがありました。東海大学付属市原望洋高等学校様のご厚意で、校内にある「松前記念講堂」をお借りして開催することができました。

当日は冷たい雨の降る中、170人もの方が子どもの読書活動推進について理解を深めました。



第1部 宮西達也さん講演会

第1部は、大人気の絵本「ティラノサウルス」シリーズが、昨年15周年を迎えた宮西達也さんの講演会「ニャーゴのやさしさ、ティラノの思いやり」です。



登場からパワー全開の宮西さんの声が会場に響き、子どもから大人まで一瞬で宮西さんの話に引き込まれていきました。宮西さんの絵本の読み聞かせは、元気いっぱい！時には観客を巻き込んで行いました。「絵本は読まなきゃダメ。どんなふうにも読んでいいから、ただその本を好きだという気持ちで読むことが大切」と読み聞かせへの思いを

伝えてくれました。子どもたちには、「一生懸命に生きて、勉強も、掃除も、遊びも全力でやって欲しい。人生1回しかないんだから、何でも一生懸命やって。すると、自然とやりたいことが見えてくる」とメッセージを送りました。



第2部 ビブリオバトル

第2部は、今年で3回目の開催になる市内の児童・生徒による「ビブリオバトル」です。今年は、小学生1人と中学生1人、高校生3人の合わせて5人がバトラーとして参加し、熱いバトルを繰り広げました。



バトラーが本の紹介を、時には身振り手振りで熱く語る一方で、5分の時間内にピタリと収めてみせると、会場からは「おーっ」と感嘆の声が上がります。なかには気持ちが入り言葉に詰まるバトラーも…。皆さんのおすすめの本への思いが観客の心に響いた素晴らしい

発表でした。5人の発表後には、宮西さんから講評をいただきバトラーも大感激!! 投票の結果、チャンプ本は、



『カモメに飛ぶことを教えた猫』が選ばれました。



♥宮西さんとバトラーたち。とっても仲良しになりました♥



- バトラーと紹介本一覧（発表順）
- ①市原八幡高等学校 3年 渡辺 実喜さん
『浜村渚の計算ノート』シリーズ
青柳 碧人/[著] 講談社
 - ②五井小学校 6年 小澤 悠真さん
『怪盗レッド』シリーズ
秋木 真/作 角川書店
 - ③市原緑高等学校 2年 本間 二葉さん
『ひめゆりの沖縄戦
一少女は嵐のなかを生きた』
伊波 園子/著 岩波書店
 - ④東海大学付属市原望洋高等学校
1年 佐藤 未梨さん
『あと少し、もう少し』
瀬尾 まいこ/著 新潮社
 - ⑤若葉中学校 2年 小宮 真熙さん
『カモメに飛ぶことを教えた猫』
ルイス・セプルベダ/[著]
河野 万里子/訳 白水社

子ども読書活動（読み聞かせ等）推進団体紹介カード

会場ロビーでは、市原市内で紙芝居や絵本の読み聞かせ等を行っているボランティア団体の活動を紹介する「子ども読書活動（読み聞かせ等）推進団体紹介カード」を配布しました。

来場者は、各団体の紹介を興味深く見て、団体の紹介カードを持ち帰る姿が見られました。



このような活動を通して、読書好きの子どもや、読書推進活動に関わる大人が増え、市原の子どもたちの心が豊かになることを願い、今年度のフォーラムは終了しました。